

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	②-59	実施計画番号	73	事業開始年度	平成20年度
事務事業名	食育関連事業			事業終了年度	-
担当課名	健康増進課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	食育基本法第十条		関連事務事業		
背景や経緯等	近年における国民の食生活をめぐる環境の変化に伴い、国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむための食育を推進するため、食育基本法が制定された。このことを受け、「第2次十和田市食育・地産地消推進計画」を策定し、事業を実施する。				
事務事業の目的	生涯における健康の基礎づくりとなる生活習慣を乳幼児期から確立する。 また、食の安全安心を確保し、地産地消を推進する。				
実施状況	平成23年度の間食として甘味食品飲料を頻回に飲食する習慣のある幼児は20.1%であったが、平成26年度は18%となり、減少傾向にある。 乳幼児健診時の健康教育や相談時における間食についての知識普及により、各家庭において食事の重要性が認識されてきている結果と考察する。				

## 【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1.26	1.26
	活動日数(日)	12	230	230
	人件費(千円)	432	10,433	10,433
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	1	0	0
	活動日数(日)	220	0	0
非常勤職員	人件費(千円)	1,628	0	0

## 【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	0	35	35

## 【指標】

活動指標	活動指標名①	乳幼児健診等における栄養指導等				
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
	5回×12か月	回	60	60	60	
	活動指標名②	食生活改善推進員による栄養・食生活に関する地域活動				
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
		回	30	35	35	
成果指標	成果指標名①	間食として甘味食品飲料を頻回に飲食する習慣のない幼児(1歳6か月児)				
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			目標値	85%	85%	85%
			実績値	82%	83%	調査 予定
			達成度(%)	96%	98%	
	成果指標名②	栄養バランスを心がけて食生活を送っている人の割合の増加				
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
		目標値	80%	80%	80%	
		実績値	調査 無	調査 予定無	調査 予定	
		達成度(%)				

# 十和田市事務事業評価シート

## 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
<b>妥当性</b>	①	<b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;"><b>存在意義の見直しの余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>0 / 4</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">市民の健康的な生活習慣を形成するために、幅広く事業が展開され、各関係課の既存の事業の中で行われている。</td> </tr> </table>	<b>存在意義の見直しの余地</b>	<b>0 / 4</b>	市民の健康的な生活習慣を形成するために、幅広く事業が展開され、各関係課の既存の事業の中で行われている。	
	<b>存在意義の見直しの余地</b>	<b>0 / 4</b>								
市民の健康的な生活習慣を形成するために、幅広く事業が展開され、各関係課の既存の事業の中で行われている。										
②	<b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2	4					
<b>有効性</b>	③	<b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;"><b>成果向上の余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>3 / 6</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">成果指標①の達成度が、平成25年度の実績値に比べ40%に上昇した。活動指標②の地域活動への参加者が高齢化・固定化してきているため、壮年期へのはたらきかけについて検討していく必要がある。既存の事業の中で食育を展開する上で、内容が固定化している傾向があるため、効果的な食育の周知方法の検討が必要である。</td> </tr> </table>	<b>成果向上の余地</b>	<b>3 / 6</b>	成果指標①の達成度が、平成25年度の実績値に比べ40%に上昇した。活動指標②の地域活動への参加者が高齢化・固定化してきているため、壮年期へのはたらきかけについて検討していく必要がある。既存の事業の中で食育を展開する上で、内容が固定化している傾向があるため、効果的な食育の周知方法の検討が必要である。	
	<b>成果向上の余地</b>	<b>3 / 6</b>								
	成果指標①の達成度が、平成25年度の実績値に比べ40%に上昇した。活動指標②の地域活動への参加者が高齢化・固定化してきているため、壮年期へのはたらきかけについて検討していく必要がある。既存の事業の中で食育を展開する上で、内容が固定化している傾向があるため、効果的な食育の周知方法の検討が必要である。									
④	<b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	3					
⑤	<b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1	1					
<b>効率性</b>	⑥	<b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;"><b>コスト削減の余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>0 / 6</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">本事業は、既存の事業の中で展開されている。減塩とバランスのとれた食生活の推進のため、食生活改善推進員会に事業委託している。</td> </tr> </table>	<b>コスト削減の余地</b>	<b>0 / 6</b>	本事業は、既存の事業の中で展開されている。減塩とバランスのとれた食生活の推進のため、食生活改善推進員会に事業委託している。	
	<b>コスト削減の余地</b>	<b>0 / 6</b>								
	本事業は、既存の事業の中で展開されている。減塩とバランスのとれた食生活の推進のため、食生活改善推進員会に事業委託している。									
⑦	<b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6					
⑧	<b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	2					
<b>公平性</b>	⑨	<b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;"><b>受益者負担適正化の余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>0 / 4</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">乳幼児期から高齢期まで、幅広い年代層にはたらきかけている。事業の周知は広報やホームページを活用し積極的に取り組んでいる。</td> </tr> </table>	<b>受益者負担適正化の余地</b>	<b>0 / 4</b>	乳幼児期から高齢期まで、幅広い年代層にはたらきかけている。事業の周知は広報やホームページを活用し積極的に取り組んでいる。	
	<b>受益者負担適正化の余地</b>	<b>0 / 4</b>								
乳幼児期から高齢期まで、幅広い年代層にはたらきかけている。事業の周知は広報やホームページを活用し積極的に取り組んでいる。										
⑩	<b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2	4					
<b>現在の適性</b>					<b>17 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>3 / 20</b>			

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **17** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **3** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

有効性を改善して継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要  
今後も食育関係課の事業の中で食育を推進していく。  
有効性について互いの情報交換を密にし、目的に沿った事業を推進する。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。  
家族一緒にバランスのとれた食生活、安全・安心な食環境づくりと地産地消を推進する。